

2013 年秋学期レポート  
日本財団聴覚障害者海外奨学金事業

第 9 期生 瀧澤 泉

2013 年 8 月 26 日(月)、オーロニ大学で秋学期が始まった。英語のクラスは 188A(Writing)と 189A(Reading)、他に Deaf Culture(ろう文化)と ASL(アメリカ手話)のクラスも受けた。Tutor(個別指導)も含めて、課題や授業に追いつくのに精一杯な状態で 3 ヶ月半の秋学期が終わった。

**【秋学期(履修クラス)】**

1) DEAF-IUPP188A(ろう学生のみ)–Writing(ライティング)

ろう学生のためのクラスで、大学への進学準備のためのクラスである。手話の出来る教授がパワーポイントを使いながら、説明を行っていたのでとても分かりやすかった。ろう学生が 13 人で、ほとんどが国際学生だった。Writing(ライティング)クラスは実際にユダヤ人の女性が家族と残酷な目に遭ったという内容の小説「BLIMA」を読み、自分の言葉で論文(エッセイ)を 1–3 ページ程書いて提出した。アメリカ式のエッセイやレポートに慣れないため、書き方を身につけられるよう、毎回書く努力をした。文法の修正方法も習ったため、エッセイを書き終えた後に最終チェックして修正するようにした。文法を確認するたびに自分の弱点に気づき、修正することで文法が身に付くようになっていったと実感している。

2) DEAF-IUPP189A(ろう学生のみ)–Reading(リーディング)

Reading(リーディング)クラスは主に読解力を向上させるために、社会問題や医学に関する記事を読んで理解するスキルを学んだ。「SQ3R」(Survey, Question, Read, Recite, and Review)という方法で、これを使って学習することで本や記事を読むときに毎回辞書を使わなくても内容が理解できるようになる。宿題を通して「SQ3R」を使いこなすよう努めた。「SQ3R」の中で特に印象に残ったことは、重要な文章に発光マーカーで線を引くことだった。そのお陰で自分自身で読むときや課題をやる時もスムーズに進み、内容を全体的に理解できるようになった。他に英単語(語彙)が一番苦手だったが、1 枚のカードに表は英単語、

裏に意味(日本語ではなく英語)を書いて暗記した。日本にある暗記カードと似たようなものだが、アメリカで売られているカードは少し大きめで自分にとっては馴染んで使いやすかった。

### 3) Deaf Culture(ろう学生のみ) - ろう文化

Deaf Culture(ろう文化)のクラスはろう教授である Dr. Thomas K. Holcomb(周りの人は「トム」と呼んでいる)が教えている。このクラスは、アメリカやメキシコ、スウェーデン、中国、アフリカなど様々な国から集まったろう学生と異なる視点や価値観をディスカッションして学ぶクラスである。他にエッセイを4回、ADA法のプロジェクト、ろうに関する本(1冊)を選んでレポートを提出するなどいくつか宿題があって苦労した。クラスの最初に小テストが出されることがあるため毎回クラスの前に本を読んだり、前回習った内容を復習したりして精神的に大変だった。しかし、秋学期の中で一番勉強になったのはこのクラスである。日本だけではなく、様々な国の環境や問題の違いでまた違った考え方を知る事ができた。ろう者の中でも難聴者とろう者との間で違った行動も起きる。ろう文化とは何かを知ることで、自分の経験と環境の背景が見えてきて目から鱗という話が多かった。改めて、ろう者としてのアイデンティティを自分がそこまで深くまで知らなかったということが分かった。ろう文化の中ではADA法やデフアート、出版(本)、音楽など幅広く含めて学んだ。日本にいた時の自分は自分自身に対してマイナ斯的な考え方を持っていたが、このクラスを受けてから価値観が180度と言ってもいいくらい変わった。様々なろう者と交流するなかで、互いに情報を交換し合う、理解し合うことが重要だということを学んだ。このクラスを受けた学生や教授にとっても感謝している。ろう者と関わっていく中でろう文化を大事にし、ろう者それぞれの背景を見つめていきたい。

### 4) ASL102 - アメリカ手話II

ASL(アメリカ手話)クラスは基本的に会話の出来るレベルで、コミュニケーションをはかって練習など行った。このクラスはろう学生が5人、それ以外20人位が聴者だった。最初の自分はASLに慣れておらず、ぎこちなかった。知らない語彙が多く自分の意見をASLで説明するのが難しかったのが理由かと思われる。時が経つにつれて、いつも自分の隣に座っている中国出身の女性と仲良く

なり、何度も手話のチェックをした。このクラスの中でその女性と共に練習するにつれて、段々慣れてきた。

### 【生活について】

ホームステイ先の家から Ohlone College(オーロニ大学)は近く、バスで 15 分位の所にあるので通うのに苦労はしなかった。家賃はそれほど高くなく、食事はほとんど自炊なので過ごしやすい環境である。自分にとっては学習に集中しやすい場所である。ホストファミリー皆は半分ろう者で、半分聴者である。皆手話ができるので生活の中で困ったとき、助けてくれたり相談にのってくれて感謝している。自炊は、さすがにアメリカの食材で日本食を作るのが難しい。やっぱりアメリカの食生活は違うなあと実感した。

秋学期の間に多くのデフイベントに参加した。オーロニ大学の中に ASL Club があり、毎月一度の PIZZA NIGHT(ピザの店でろう者と交流するイベント)やサンフランシスコの観光、ツアーなど企画・実施する団体のようなものである。他に DCARA や BAADA(アジアろう協会)など、いくつかのろう者の協会が様々なイベントや運動など行っている。何人かのろう者と出会っていく中で協会の組織や存在を知る事ができた。

### 【まとめ】

課題や試験に追いつく事が大変だったが、日々の生活の中でクラス参加と課題を終わらせる事を全力で取り組んだ。Tutor(個別指導)を上手く使用し、春学期に向けて更に上達出来るよう学習に取り組んでいきたい。